

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 10010010

政策目標	4	【快適感を満たす環境のまち・雄武】～生活環境・生活基盤の充実～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	14	交通体系の整備	事 業 優 先 度		A	
単位施策	1	道路環境の向上	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	建設機械整備事業		見 直 し 年 度			
事業期間	令和元年度～令和3年度		担 当 課	10	建設水道課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	建設機械の購入及び更新台数				#N/A	
事業目標	3台		ハート／ソフト 事業区分	1	ハード事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平成 30 年度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容
計 画 内 容	○経過年数11年以上の補助対象建設機械の更新事業、道路維持作業車購入事業 ・更新台数～2台 ・購入台数～1台		道路維持作業車(砂散布車)1台 (平成30年度繰越事業)	グレーダ 1台 (雪寒機械)	除雪ドーザ 1台 (雪寒機械)	
	事業費(千円)	91,930	0	4,000	43,410	44,520
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	58,620			28,940	29,680
	道支出金	0				
	地方債	24,200			12,400	11,800
	その他	0				
一般財源	9,110		4,000	2,070	3,040	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	3,960	0	3,960	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	3,960		3,960			
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	・社会資本整備総合交付金 (補助率2/3)		道路維持作業車(砂散布車)1台			
	・地方債(過疎)					
	【評価・実績】					
		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
			A-継続/現状維持			
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値		1台	1台	1台
	年度達成率	#DIV/0!	99%	0%	0%	
後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	0%	4%	4%	4%	
	備考欄					

事業名	建設機械整備事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係長	大庭 悟

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	道路利用者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	建設機械の更新台数																		
抱える課題やニーズ	冬期間の除排雪を含めた道路維持管理の実施による町道等の円滑な通行が確保できないこと	指標(指標計算式/解説)	<table border="1"> <tr> <th colspan="2">目標値及び実績値</th> </tr> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>1台</td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td>1台</td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>目標年度</td> <td>令和元年度</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実績値</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成度</td> <td></td> </tr> </table>	目標値及び実績値		目標年度	令和元年度	目標値	1台	実績値	1台	達成度	100.0%	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標値及び実績値																					
目標年度	令和元年度																				
目標値	1台																				
実績値	1台																				
達成度	100.0%																				
目標年度	令和元年度																				
目標値																					
実績値																					
達成度																					
どのような状態になることを目指したのか(意図)	建設機械を更新することによる作業能率の向上	①	建設機械の更新台数/建設機械の更新台数																		
その結果、どのような成果を実現したか ※成果=目的	冬期間の除排雪を含めた道路維持管理の実施による町道等の円滑な通行及び安全性の確保	②																			
内容(どのような手段で何をを行ったか)	民間による物品購入の実施	入札により民間に発注し、道路維持作業車を購入した。																			

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	冬期間の除排雪を含めた道路の維持管理を実施し、町道等の円滑な通行及び安全性を確保することは、町(道路管理者)が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		道路維持作業車を更新したことにより、作業能率が向上し、また、故障による修繕費の軽減が図られた。
	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		更新前より作業能率が向上したことで、作業時間の短縮が図られたこと、また、故障による修繕費の軽減となり、事業費が抑制されたことは、効率的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input checked="" type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		本事業を実施したことにより、町道等の円滑な通行及び安全性が確保できたことは、不特定多数の道路利用者に対し公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
冬期間の除排雪を含めた道路の維持管理を実施するためには必要な事業であるため、今後も計画どおり事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
冬期間の除排雪を含めた道路の維持管理を実施し、町道等の円滑な通行及び安全性を確保することは、必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当であると判断する。		

- ※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 10010020

政策目標	4 【快適感を満たす環境のまち・雄武】～生活環境・生活基盤の充実～	会 計 区 分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 ・維持事業であるため、毎年実施する事業であります。
基本施策	14 交通体系の整備	事業優先度	A	
単位施策	1 道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	除雪事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担 当 課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関 係 課	#N/A	
事業指標	除雪延長		#N/A	
事業目標	809.4km	ハード／ソフト 事業区分	1 ハード事業	
町民参加	有 広報等による協力要請	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画 事 業 内 容		平成 30 年度 事 業 内 容	令和 元 年度 事 業 内 容	令和 2 年度 事 業 内 容	令和 3 年度 事 業 内 容	令和 4 年度 事 業 内 容	
計 画 内 容	○除雪延長L=809.4km ・民間委託による除雪延長 L=726.3km ・直営による除雪延長 L=83.1km	除雪延長 L=161.5km ・委託 L=145.0km ・直営 L=16.5km	除雪延長 L=161.5km ・委託 L=145.0km ・直営 L=16.5km	除雪延長 L=162.1km ・委託 L=145.4km ・直営 L=16.7km	除雪延長 L=162.1km ・委託 L=145.4km ・直営 L=16.7km	除雪延長 L=162.2km ・委託 L=145.5km ・直営 L=16.7km	
	事業費(千円)	432,358	73,324	88,254	90,260	90,260	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	21,994	6,994	7,500	7,500		
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	77,000			77,000		
一般財源	333,364	66,330	80,754	5,760	90,260	90,260	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	174,432	98,011	76,421	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	13,668	6,834	6,834			
	道支出金	0					
	地方債	0					
その他	0						
一般財源	160,764	91,177	69,587				
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	・社会資本整備総合交付金 (雪害指定路線補助率2/3)	【評価・実績】	除雪延長 L=161.5km ・委託L=145.0km ・直営L= 16.5km	除雪延長 L=162.1km ・委託L=145.3km ・直営L= 16.8km			
	・財政調整基金繰入金						
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	161.5km	161.5km	162.1km	162.1km	162.2km
		年度達成率	134%	87%	0%	0%	0%
後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	23%	40%	40%	40%	40%	
	備考欄						

事業名	除雪事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係長	大庭 悟

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	道路利用者、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	除雪延長
抱える課題やニーズ	降雪等による交通障害	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
どのような状態になることを目指したのか(意図)	冬期間における幹線道路や生活道路、公共施設周辺の交通及び安全性の確保	① 除雪延長/除雪延長	目標年度 令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	冬期間の交通及び安全性の確保		目標値 161.5 km
			実績値 162.1 km
			達成度 100.4 %
		②	目標年度 令和元年度
			目標値
			実績値
			達成度
内容(どのような手段で何をを行ったか)	①直営と民間委託による除雪の実施	除雪については、直営分で借上げた運転手4名及び添乗員3名と職員運転手2名の計9名で16.8kmを、委託分で民間業者により145.3kmを行った。また、今年度も当初予算額を上回ったため、増額補正を行った。	
	②直営による排雪の実施	排雪は、不足運転手及び機械を民間業者から借上げ、直営で実施した。	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	冬期間の幹線道路と生活道路の交通及び安全性の確保は、町(道路管理者)が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、幹線道路や生活道路、公共施設周辺の交通および安全性が確保された。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	除雪作業に係る堆雪スペース(民有地を含む)を各所に確保できたことは、作業効率を向上させることができたため、効率的であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	冬期間の幹線道路や生活道路、公共施設周辺の交通及び安全性を確保できたことは、不特定多数の道路利用者に対し、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
当該事業は、計画通りに進めることができた。 また、冬期間の除排雪は、交通確保上必要なものであることから、今後も計画どおり事業を進めることが必要であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
冬期間の除排雪は、交通確保のためには、必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当であると判断する。		

- ※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 10010030

政策目標	4 【快適感を満たす環境のまち・雄武】～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	14 交通体系の整備	事業優先度	B	道路整備が終了する都度、道路台帳の更新整理を行う事業であります。
単位施策	1 道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	道路台帳補正更新事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	道路台帳補正延長		#N/A	
事業目標	2,564.5m	ハード／ソフト事業区分	1 ハード事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	無	

全体計画 事業内容		平成 30 年度 事業内容	令和 元 年度 事業内容	令和 2 年度 事業内容	令和 3 年度 事業内容	令和 4 年度 事業内容
計 画 内 容	○道路台帳補正 L=2,564.5m	道路台帳補正 L=116.5m	道路台帳補正 L=166.5m	道路台帳補正 L=1,574m	道路台帳補正 L=420m	道路台帳補正 L=287.5m
	事業費(千円)	7,770	950	1,500	1,990	1,690
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	7,770	950	1,500	1,990	1,690
実 績 事 業 費	事業費(千円)	2,403	918	1,485	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
	一般財源	2,403	918	1,485		
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等) 道路台帳補正 L=116.5m	(実施内容等) 道路台帳補正 L=166.5m	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】					
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 116.5m	166.5m	1,574m	420m	287.5m
		年度達成率 97%	99%	0%	0%	0%
	後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率 12%	31%	31%	31%	31%
	備考欄					

事業名	道路台帳補正更新事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係長	大庭 悟

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	道路台帳補正延長								
抱える課題やニーズ	更新された道路情報を道路台帳に反映できない	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	道路整備が完了した道路の台帳管理	① 道路台帳補正延長/道路台帳補正延長	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>166.5 m</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>166.5 m</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0 %</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	166.5 m	実績値	166.5 m	達成度	100.0 %
目標年度	令和元年度										
目標値	166.5 m										
実績値	166.5 m										
達成度	100.0 %										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	適正な維持管理	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何をを行ったか)	民間業者による委託の実施	見積りにより民間業者に委託し、道路台帳の補正更新を実施した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	道路整備を実施した路線の台帳を補正更新することは、維持管理上、町(道路管理者)が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		当該事業を実施したことにより、適正な維持管理が図られた。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		本町の道路台帳整備を初年度から受託している業者に依頼することで、台帳更新に伴う経費の削減が図られたことは、効率的であると判断する。
効率的/概ね効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		台帳の更新整備を実施することは、道路の適切な維持管理に繋がりが、不特定多数の道路利用者に対し、公平であると判断する。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
本事業は、計画通りに進めることができました。 また、道路台帳を更新することは、維持管理上、必要であるため、今後も計画通り事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
道路整備が完了した道路を維持管理する上で、継続、現状維持が適当であると判断する。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 10010040

政策目標	4 【快適感を満たす環境のまち・雄武】～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 維持修繕事業であるため、毎年実施する事業である。
基本施策	14 交通体系の整備	事業優先度	B	
単位施策	1 道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	町道等維持管理事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	事故発生件数		#N/A	
事業目標	0件	ハード／ソフト事業区分	1 ハード事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	無	

全体計画		平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容
計 画 内 容	・町内小工事 町道の舗装、排水、法面等の応急的な補修工事	町内小工事 1式	町内小工事 1式	町内小工事 1式	町内小工事 1式	町内小工事 1式
	・町道排水管路清掃 雨水等による道路排水の流量確保のための 排水管路の清掃	管路清掃延長 L=4,000m	管路清掃延長 L=4,000m	管路清掃延長 L=4,000m	管路清掃延長 L=4,000m	管路清掃延長 L=4,000m
	・町道砂利敷・路面整正 雨水等による砂利道の不陸を解消するための 砂利敷・路面整正	砂利敷延長 L=4,000m 路面整正延長 L=230,000m	砂利敷延長 L=4,000m 路面整正延長 L=230,000m	砂利敷延長 L=4,000m 路面整正延長 L=230,000m	砂利敷延長 L=4,000m 路面整正延長 L=230,000m	砂利敷延長 L=4,000m 路面整正延長 L=230,000m
	・町道路面清掃 融雪後における車道及び歩道の清掃	町道路面清掃 L=36,200m	町道路面清掃 L=36,410m	町道路面清掃 L=36,620m	町道路面清掃 L=36,620m	町道路面清掃 L=36,620m
	・町道防雪柵設置 吹雪による視程障害を解消するための吹溜式 及び吹払式防雪柵の設置	防雪柵設置延長L=785.4m (吹溜式L=716.8m,吹払式 L=68.6m)	防雪柵設置延長L=785.4m (吹溜式L=716.8m,吹払式 L=68.6m)	防雪柵設置延長L=785.4m (吹溜式L=716.8m,吹払式 L=68.6m)	防雪柵設置延長L=785.4m (吹溜式L=716.8m,吹払式 L=68.6m)	防雪柵設置延長L=785.4m (吹溜式L=716.8m,吹払式 L=68.6m)
	・町道の舗装道路で、見えにくくなった中心線や外 側線を塗装する(住民活動費との予算合算発注事業)。	塗装延長 L=15,000m	塗装延長 L=15,000m	塗装延長 L=15,000m	塗装延長 L=15,000m	塗装延長 L=15,000m
計 画 事 業 費	事業費(千円)	140,006	26,700	27,614	28,564	28,564
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	140,006	26,700	27,614	28,564	28,564	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	51,792	24,523	27,269	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	51,792	24,523	27,269			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
			町内小工事 1式、管路清掃L=3,465m、 砂利敷L=4,520m、路面整正L=81,360m、 路面清掃L=36,200m、 防雪柵設置延長L=785.4m、 区画線塗装L=12,690m	町内小工事 1式、管路清掃L=3,520m、 砂利敷L=4,280m、路面整正L=70,378m、 路面清掃L=36,200m、 防雪柵設置延長L=785.4m、 区画線塗装L=13,087m		
		【評価・実績】				
			※事務事業評価結果 A－継続／現状維持	※事務事業評価結果 A－継続／現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値	0件	0件	0件	0件
	後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	92%	99%	0%	0%
	全体達成率	18%	37%	37%	37%	
	備考欄					

事業名	町道等維持管理事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係長	大庭 悟

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	道路利用者、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	事故発生件数								
抱える課題やニーズ	道路状況の変化に伴う交通障害	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	道路の維持管理を進めることによる道路状況の改善	① 事故発生件数/事故発生件数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>0件</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>0件</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	0件	実績値	0件	達成度	100.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	0件										
実績値	0件										
達成度	100.0%										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	道路利用者の安全な通行の確保	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何をを行ったか)	民間業者による維持管理委託業務、工事の実施	入札及び見積合せにより、民間業者に委託業務、工事を発注し、道路の維持管理を実施した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町が管理する道路を適正に維持管理し、道路利用者の安全な通行を確保することは、町(道路管理者)が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		当該事業を実施したことにより、快適で安全な通行が確保されたことは、有効であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		適切な維持管理を進めることにより、各道路施設の事業を早期に対応できたことは、被害拡大による事業費の増加や交通事故を防ぐことができ、効率的であると判断する。
	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input checked="" type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		快適で安全な通行が確保されたことは、不特定多数の道路利用者に対し、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
当該事業は、計画通りに進めることができた。 また、町道を適切に維持管理し、安全な通行を確保することは必要なことであることから、今後も計画通り事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向 (Action) <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="text-align: center;">↓</div> </div>		
継続/現状維持		
道路の交通障害を解消し、安全な通行を確保することは今後も必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当であると判断する。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 10010050

政策目標	4 【快適感を満たす環境のまち・雄武】～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 維持修繕事業であるため、毎年実施する事業である。
基本施策	14 交通体系の整備	事業優先度	B	
単位施策	1 道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	町道等除草作業他環境保全事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	除草作業延長		#N/A	
事業目標	184.5km	ハード／ソフト事業区分	1 ハード事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画		平 成 30 年 度	令 和 元 年 度	令 和 2 年 度	令 和 3 年 度	令 和 4 年 度
事 業 内 容		事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容	事 業 内 容
計 画 内 容	○道路等除草作業 ・雇用人数:3人 ・雇用期間:5月～10月(6ヶ月間)	道路等除草作業 ・雇用人数 3人 ・5月～10月(6ヶ月間)	道路等除草作業 ・雇用人数 3人 ・5月～10月(6ヶ月間)	道路等除草作業 ・雇用人数 3人 ・5月～10月(6ヶ月間)	道路等除草作業 ・雇用人数 3人 ・5月～10月(6ヶ月間)	道路等除草作業 ・雇用人数 3人 ・5月～10月(6ヶ月間)
	事業費(千円)	40,347	7,400	7,900	8,349	8,349
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	40,347	7,400	7,900	8,349	8,349	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	14,980	7,236	7,744	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	14,980	7,236	7,744			
関 連 事 項	特定財源の名称					
	【評価・実績】	(実施内容等) 道路等除草作業 ・雇用人数 3人 ・5月～10月(6ヶ月間) ・除草作業延長L=36.9km	(実施内容等) 道路等除草作業 ・雇用人数 3人 ・5月～10月(6ヶ月間) ・除草作業延長L=36.9km	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
		A-継続/現状維持	A-継続/現状維持			
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	36.9km	36.9km	36.9km	36.9km
		年度達成率	98%	98%	0%	0%
後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	18%	37%	37%	37%	
	備考欄					

事業名	町道等除草作業他環境保全事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係長	大庭 悟

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	除草作業延長								
抱える課題やニーズ	町道等の環境と雑草による通行障害	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	町道等に生育する雑草の除去と道路環境の保全	① 除草作業延長/除草作業延長	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>36.9 m</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>36.9 m</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0 %</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	36.9 m	実績値	36.9 m	達成度	100.0 %
目標年度	令和元年度										
目標値	36.9 m										
実績値	36.9 m										
達成度	100.0 %										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	雑草のない道路環境	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何を行ったか)	民間委託による実施	入札により民間業者に委託し、町道等に生育している雑草の除草、草刈作業を実施した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町道等に生育している雑草による通行障害の回避や道路の環境保全是、町(道路管理者)が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、雑草による通行障害のない道路環境が保全されたことは、有効であると判断する。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	草が伸びる前に定期的に除草したことは、作業効率を向上させ、事業費を抑制できたと判断する。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減 その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	雑草による通行障害の回避や道路環境が保全されたことは、不特定多数の道路利用者に対して、公平であると判断する。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
本事業は、計画通りに進めることができた。 また、雑草による通行障害を回避するためには、今後も計画通りに事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
継続/現状維持			
雑草による通行障害の回避や道路環境保全のためには、継続、現状維持が妥当であると判断する。			

※展開方向の区分
○継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
○終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 10010060

政策目標	4 【快適感を満たす環境のまち・雄武】～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	14 交通体系の整備	事業優先度	A	全体事業費422,000千円(平成25年度～令和6年度)
単位施策	1 道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	修繕橋梁数:24橋、橋梁点検数54橋
事業名	町道橋修繕事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	橋梁修繕数		#N/A	
事業目標	54橋	ハード／ソフト事業区分	1 ハード事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	無	

全体計画		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
事業内容		事業内容	事業内容	事業内容	事業内容	事業内容		
計 画 内 容	橋梁詳細設計:15橋 橋梁修繕工事:11橋 橋梁点検 :54橋 橋梁長寿命化修繕計画策定	○橋梁補修設計 三号橋、豊年橋、音稲府橋 高野橋、雄栄橋 ○橋梁補修工事 高野橋、千田橋、元稲府橋	○橋梁補修工事 豊年橋、雄栄橋	○橋梁補修設計 第4号橋、横石橋、豊年橋 ○橋梁修繕工事 豊年橋、雄栄橋	○橋梁補修設計 大川橋、桜橋、栄橋、 川中橋 ○橋梁補修工事 第4号橋、横石橋、豊年橋 ○橋梁点検 54橋	○橋梁補修設計 酪栄橋、村田橋、板谷橋 盤の沢橋 ○橋梁補修工事 大川橋、桜橋、栄橋、 川中橋、豊年橋 ○橋梁長寿命化修繕計画策定		
	計画事業費	事業費(千円)	394,450	51,510	74,150	93,030	94,760	81,000
実 績 事 業 費	財源内訳	国庫支出金	255,995	33,429	48,123	60,376	61,498	52,569
		道支出金	0					
		地方債	123,100	18,000	26,000	32,600	20,200	26,300
		その他	0					
		一般財源	15,355	81	27	54	13,062	2,131
関 連 事 項	【評価・実績】	事業費(千円)	90,529	49,972	40,557	0	0	0
		国庫支出金	58,737	32,416	26,321			
		道支出金	0					
		地方債	31,700	17,500	14,200			
		その他	0					
一般財源	92	56	36					
	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)		
	・社会資本整備総合交付金 (補助率0.649)	○橋梁補修設計 三号橋、豊年橋、音稲府橋 高野橋、雄栄橋	○橋梁補修工事 豊年橋、雄栄橋、高野橋					
	・地方債(過疎)100%	○橋梁補修工事 高野橋、千田橋、元稲府橋						
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果		
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値 3橋	3橋	3橋	4橋	4橋		
		年度達成率 97%	55%	0%	0%	0%		
	後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率 13%	23%	23%	23%	23%		
		備考欄						

事業名	町道橋修繕事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係長	大庭 悟

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	道路利用者、橋梁	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	修繕橋梁数
抱える課題やニーズ	橋梁の損傷による通行障害	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値
どのような状態になることを目指したのか(意図)	橋梁修繕による損傷箇所の健全化	① 修繕橋梁数/修繕橋梁数	目標年度 令和元年度
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	道路利用者の安全な通行の確保		目標値 2橋
内容(どのような手段で何をを行ったか)	民間業者による工事の実施 入札により、民間業者に工事を発注し、橋梁修繕を実施した。		実績値 3橋
			達成度 150.0%
			目標年度 令和元年度
			目標値
			実績値
			達成度

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	道路利用者の安全な通行を確保することは、町(道路管理者)が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	橋梁の修繕を行うことで、適切な維持管理ができ、安全な通行の確保ができたことは、有効であると判断する。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	コスト削減を図るために策定した橋梁長寿命化修繕計画に基づき橋梁の修繕を実施できたこと、また、橋梁修繕を実施したことで安全な通行が確保されたことは、効率的であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	橋梁修繕を実施したことにより、道路の安全な通行の確保が図られたことは、不特定多数の道路利用者に対して、公平であると判断する。
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
当該事業は、計画通り進めることができた。 また、橋梁の修繕を行い、安全な通行を確保することは必要なことであることから、今後も計画通り事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
橋梁長寿命化修繕計画に基づき、橋梁修繕を完了させるまでは、継続、現状維持が適当であると判断する。		

- ※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 10010080

政策目標	4	【快適感を満たす環境のまち・雄武】～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	14	交通体系の整備	事業優先度		B	
単位施策	1	道路環境の向上	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	町道舗装整備事業		見直し年度			
事業期間	令和元年度～令和2年度		担当課	10	建設水道課	
事業主体	雄武町		関係課		#N/A	
事業指標	整備延長				#N/A	
事業目標	1,170m		ハード／ソフト事業区分	1	ハード事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 30 年度 事業内容	令 和 元 年 度 事業内容	令 和 2 年 度 事業内容	令 和 3 年 度 事業内容	令 和 4 年 度 事業内容
計 画 内 容	○町道舗装整備 曙1号線L=150m、モサラマン線L=860m 曙3号線L=160m		○町道舗装整備 曙3号線L=160m	○町道舗装整備 曙1号線L=150m モサラマン線L=860m		
	事業費(千円)	44,700	0	11,700	33,000	0
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	41,400		11,700	29,700	
	その他	0				
一般財源	3,300	0		3,300		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	12,001	0	12,001	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	12,000		12,000		
その他	0					
一般財源	1		1			
関 連 事 項	特定財源の名称	【評価・実績】	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	・過疎対策事業債(100%)			曙3号線L=160m		
	・公共施設等適正管理 推進事業債(90%)					
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値		160m	1,010m		
	年度達成率	#DIV/0!	103%	0%	#DIV/0!	#DIV/0!
後期計画への継続 (継続無し)	全体達成率	0%	27%	27%	27%	27%
	備考欄					

事業名	町道舗装整備事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係長	大庭 悟

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	道路利用者	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	整備延長								
抱える課題やニーズ	近年の住宅建設による居住者の増加に伴い、道路利用者が増えてきたことを受け、未舗装箇所の安全な通行が確保できない	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	未舗装箇所の舗装化	① 整備延長/整備延長	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>160 m</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>160 m</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0 %</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	160 m	実績値	160 m	達成度	100.0 %
目標年度	令和元年度										
目標値	160 m										
実績値	160 m										
達成度	100.0 %										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	道路利用者の快適で安全な通行の確保	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何を行ったか)	民間業者による工事の実施	入札により民間業者に発注し、工事を実施した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	道路利用者の快適で安全な通行を確保することは、町(道路管理者)が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、快適で安全な通行を確保できたことは、有効であると判断する。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	当該事業を進めるにあたり、再生資材(舗装合材)を使用したことで、事業費を抑制することができたと判断する。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	快適で安全な通行を確保できたことは、不特定多数の道路利用者に対し、公平であると判断する。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
課題あり	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A:計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B:ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C:当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D:事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
当該事業は計画通り進めることができた。 また、快適で安全な通行を確保するためには、今後も計画通り事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
快適で安全な通行の確保を図ることは必要不可欠であることから、継続、現状維持が妥当であると判断する。		

- ※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 10010100

政策目標	4	【快適感を満たす環境のまち・雄武】～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	14	交通体系の整備	事業優先度		B	
単位施策	1	道路環境の向上	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	町道歩道改修事業		見直し年度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担当課	10	建設水道課	
事業主体	雄武町		関係課		#N/A	
事業指標	改修延長				#N/A	
事業目標	2,080m		ハード／ソフト事業区分	1	ハード事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 30 年度 事業内容	令和 元 年度 事業内容	令和 2 年度 事業内容	令和 3 年度 事業内容	令和 4 年度 事業内容		
計 画 内 容	○町道歩道改修 雄武高校線(両側W=1.2~1.8m)L=420m 中央線(両側W=1.5m)L=880m 曙通り(両側W=1.5m) L=370m 旭日通り(両側W=1.5m) L=410m	○町道歩道改修 雄武高校線(両側W=1.2~1.8m) L=420m	○町道歩道改修 中央線(両側W=1.5m) L=450m(幸海線～新町通り)	○町道歩道改修 中央線(両側W=1.5m) L=430m(新町通り～曙通り)	○町道歩道改修 曙通り(両側W=1.5m) L=370m	○町道歩道改修 旭日通り(両側W=1.5m) L=410m		
	事業費(千円)	182,800	29,000	41,000	40,200	34,500	38,100	
計 画 事 業 費	財源内訳							
	国庫支出金	0						
	道支出金	0						
	地方債	182,800	29,000	41,000	40,200	34,500	38,100	
	その他	0						
実 績 事 業 費	財源内訳							
	国庫支出金	0						
	道支出金	0						
	地方債	67,800	28,800	39,000				
	その他	0						
一般財源	111	47	64					
関 連 事 項	特定財源の名称 ・地方債(過疎債)100%	【評価・実績】	(実施内容等) ○町道歩道改修 雄武高校線(両側W=1.2~1.8m) L=422m	(実施内容等) ○町道歩道改修 中央線(両側W=1.5m) L=450m(幸海線～新町通り)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
	※事務事業評価結果		※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果		
	A-継続/現状維持		A-継続/現状維持					
	第5期計画からの継続 (継続有り)		年度目標値	420m	450m	430m	370m	410m
	後期計画への継続 (継続有り)		年度達成率	99%	95%	0%	0%	0%
			全体達成率	16%	37%	37%	37%	37%
			備考欄					

事業名	町道歩道改修事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係長	大庭 悟

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	道路利用者、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標) 指標(指標計算式/解説)	歩道改修延長		
抱える課題やニーズ	歩道の損傷による通行障害		① 歩道改修延長/歩道改修延長	目標年度	令和元年度
どのような状態になることを目指したのか(意図)	歩道改修による凸凹、ひび割れの解消			目標値	450 m
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	道路利用者の安全な通行の確保		②	実績値	450 m
内容(どのような手段で何を行ったか)	民間業者による工事の実施	入札により、民間業者に工事を発注し、歩道整備を実施した。			
			達成度	100.0 %	
			目標年度	令和元年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	道路利用者の安全な通行を確保することは、町(道路管理者)が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、安全な通行が確保されたことは、有効であると判断する。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	当該事業を進めるにあたり、再生資材(舗装合材)を使用したことは、事業費を抑制することができたと判断する。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	安全な通行の向上が図られたことは、不特定多数の道路利用者に対し、公平であると判断する。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
当該事業は、計画通りに進めることができた。 また、今後も、安全な通行の確保のため、計画通り事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
継続/現状維持 損傷が著しく、歩行に支障をきたしている歩道の解消を行い、安全な通行の確保を図ることは必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当であると判断する。			

- ※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 10010110

政策目標	4	【快適感を満たす環境のまち・雄武】～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	14	交通体系の整備	事業優先度		B	
単位施策	1	道路環境の向上	政策事務分類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	町道排水改修事業		見直し年度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担当課	10	建設水道課	
事業主体	雄武町		関係課		#N/A	
事業指標	改修延長				#N/A	
事業目標	3,702m		ハード／ソフト事業区分	1	ハード事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全体計画 事業内容		平成 30 年度 事業内容	令和 元 年度 事業内容	令和 2 年度 事業内容	令和 3 年度 事業内容	令和 4 年度 事業内容
計 画 内 容	○排水改修 日の出岬線(元沢木)L=45m 山間部砂利道側溝整備L=3,400m 元稲府線排水改修L=257m	○排水改修 元稲府線排水改修L=75m	○排水改修 音稲府乙開拓線側溝整備 L=1,100m 元稲府線排水改修L=82m ※補正繰越(H31実施)7,900千円		○排水改修 日の出岬線(元沢木)L=45m 沢木2号線側溝整備 L=1,200m	○排水改修 元稲府線排水改修L=100m 沢木2号線側溝整備 L=1,100m
	事業費(千円)	31,900	4,500	7,900	0	9,900
計 画 事 業 費	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
	その他	0				
一般財源	31,900	4,500	7,900		9,900	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	11,988	4,320	7,668	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	11,988	4,320	7,668			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】		○排水改修 元稲府線排水改修L=84m	○排水改修 音稲府乙開拓線側溝整備 L=1,100m 元稲府線排水改修L=72m		
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	75m			1,245m
		年度達成率	96%	97%	#DIV/0!	0%
	後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	14%	38%	38%	38%
	備考欄					

事業名	町道排水改修事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係長	大庭 悟

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	排水施設	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	改修延長								
抱える課題やニーズ	道路排水施設の老朽化による機能低下	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	道路敷地内における雨水の適切な処理	① 改修延長/改修延長	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1,182 m</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1,172 m</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>99.2 %</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	1,182 m	実績値	1,172 m	達成度	99.2 %
目標年度	令和元年度										
目標値	1,182 m										
実績値	1,172 m										
達成度	99.2 %										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	道路利用者の安全な通行の確保	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何を行ったか)	民間業者による工事の実施	入札により民間業者に工事を発注し、排水改修を実施した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町道排水施設の適切な維持管理は、道路を管理する町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		当該事業を実施したことにより、排水機能が確保されたことは、有効であると判断する。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		当該事業を進めるにあたり、交通量の多い路線の工事であったことから、交通規制の時間を短縮するため、施工性の高い管種を選定し施工できたことは、効率的であると判断する。
効率的/概ね効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		雨水の適切な処理がなされ、安全の通行の向上が図られたことは、不特定多数の道路利用者に対し、公平であると判断する。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
課題あり	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
当該事業は、計画通りに進めることができた。 また、今後も、安全な通行の確保のため、計画通り事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向 (Action)	↓	↓	↓
継続/現状維持 道路排水施設を適切維持管理し、安全な通行の確保を図ることは必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当であると判断する。			

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 10010120

政策目標	4 【快適感を満たす環境のまち・雄武】～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	14 交通体系の整備	事業優先度	A	
単位施策	1 道路環境の向上	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	道路ストック総点検事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	舗装改修延長・各施設修繕数		#N/A	
事業目標	2,290m・16基・4箇所	ハード／ソフト事業区分	1 ハード事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	無	

全体計画 事業内容		平成 30 年度 事業内容	令和 元 年度 事業内容	令和 2 年度 事業内容	令和 3 年度 事業内容	令和 4 年度 事業内容
計 画 内 容	○舗装補修 曙5号線L=920m、公園通りL=500m	○舗装補修 曙5号線L=250m	○舗装補修 曙5号線L=220m	○舗装補修 曙5号線L=220m	○舗装補修 曙5号線L=210m	○舗装補修 公園通りL=300m
	○道路付属物 ・落石防護 新沢木海岸線 ・擁壁 公園通り、幸海線 ・道路照明 中央線、曙通り、元稲府線		○道路ストック総点検	○道路照明・擁壁修繕調査設計 ○道路ストック総点検	○道路付属物 ・道路照明 中央線 5基 ・擁壁 公園通り 1箇所	○道路付属物 ・道路照明 曙通り、元稲府線 6基 ・擁壁 幸海線 1箇所
計 画 事 業 費	事業費(千円)	181,200	12,000	22,900	22,500	57,500
	財源内訳					
	国庫支出金	64,379		5,776	4,672	27,971
	道支出金	0				
	地方債	113,600	12,000	14,000	17,800	29,500
	その他	0				
実 績 事 業 費	事業費(千円)	32,918	11,977	20,941	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	4,065		4,065		
	道支出金	0				
	地方債	26,500	11,900	14,600		
	その他	0				
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	・社会資本整備総合交付金 (補助率0.649)	【 評 価 ・ 実 績 】	○舗装補修 曙5号線L=250m	○舗装補修 曙5号線L=227m		
	・地方債(過疎)100%			道路ストック総点検		
			※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
			A-継続/現状維持	A-継続/現状維持		
第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	250m	220m	220m	210m・5基・1箇所	300m・6基・1箇所
後期計画への継続 (継続有り)	年度達成率	100%	91%	0%	0%	0%
	全体達成率	7%	18%	18%	18%	18%
	備考欄					

事業名	道路ストック総点検事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係長	大庭 悟

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	道路利用者、道路	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	舗装改修延長								
抱える課題やニーズ	道路施設の老朽化に伴う道路利用者への被害	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	舗装改修によるひび割れ、わだち掘れの解消、道路附属物の健全度の把握	① 舗装改修延長/舗装改修延長	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>220 m</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>227 m</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>103.2 %</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	220 m	実績値	227 m	達成度	103.2 %
目標年度	令和元年度										
目標値	220 m										
実績値	227 m										
達成度	103.2 %										
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	道路利用者の安全な通行の確保	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何をを行ったか)	民間業者による工事、委託業務の実施	入札により、民間業者に業務を発注し、道路附属物(照明施設)の点検業務を実施、また、民間業者に工事を発注し、舗装改修を実施した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	道路利用者の安全な通行を確保すること、また、道路附属物を点検し健全度を把握することは、町(道路管理者)が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	当該事業を実施したことにより、安全な通行が確保されたこと、また、道路附属物の健全度が把握できたことは、有効であると判断する。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	
	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	当該事業を進めるにあたり、再生資材(舗装合材)を使用したことは、事業費を抑制することができたと判断する。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	
	<input type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	当該事業を実施したことにより、安全な通行が確保できたことは、不特定多数の道路利用者に対し、公平であると判断する。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	
	<input type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A～D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
当該事業は、計画通りに進めることができた。 また、今後も、安全な通行の確保のため、計画通り事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
道路利用者の安全な通行の確保を図ることは必要不可欠であることから、継続、現状維持が妥当であると判断する。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 10010130

政策目標	4 【快適感を満たす環境のまち・雄武】～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載 維持修繕事業であるため、毎年実施する事業である。
基本施策	17 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	
単位施策	1 災害予防対策の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	町内河川小工事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和4年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	契約件数		#N/A	
事業目標	5件	ハード／ソフト事業区分	1 ハード事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	無	

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容	
計 画 内 容	○町内河川の応急的な補修等	護岸補修外 1式	護岸補修外 1式	護岸補修外 1式	護岸補修外 1式	護岸補修外 1式	
	事業費(千円)	13,400	2,400	2,600	2,800	2,800	
計 画 事 業 費	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	13,400	2,400	2,600	2,800	2,800	
実 績 事 業 費	事業費(千円)	4,172	1,674	2,498	0	0	
	財源内訳						
	国庫支出金	0					
	道支出金	0					
	地方債	0					
	その他	0					
	一般財源	4,172	1,674	2,498			
関 連 事 項	特定財源の名称		(実施内容等) 元沢木川土砂除去L=100m 第1中雄武川土砂除去L=50m	(実施内容等) 元沢木川土砂除去L=120m 音稲府川河岸築堤L=8.0m	(実施内容等)	(実施内容等)	
	【評価・実績】						
			※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続有り)	年度目標値	1件	1件	1件	1件	1件
		年度達成率	70%	96%	0%	0%	0%
	後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	12%	31%	31%	31%	31%
	備考欄						

事業名	町内河川小工事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係長	大庭 悟

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	河川	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	契約件数								
抱える課題やニーズ	河道内における土砂等の堆積や河岸の浸食などにより、大雨時に起こりうる背後地(民有地)への被害の拡大	指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値								
どのような状態になることを目指したのか(意図)	河川の維持管理(土砂除去や簡易的な護岸等)による原形への復旧	① 契約件数/契約件数	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td>1件</td></tr> <tr><td>実績値</td><td>1件</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>100.0%</td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値	1件	実績値	1件	達成度	100.0%
目標年度	令和元年度										
目標値	1件										
実績値	1件										
達成度	100.0%										
その結果、どのような成果を実現したか ※成果=目的	災害からの未然防止	②	<table border="1"> <tr><td>目標年度</td><td>令和元年度</td></tr> <tr><td>目標値</td><td></td></tr> <tr><td>実績値</td><td></td></tr> <tr><td>達成度</td><td></td></tr> </table>	目標年度	令和元年度	目標値		実績値		達成度	
目標年度	令和元年度										
目標値											
実績値											
達成度											
内容(どのような手段で何を行ったか)	民間による工事の実施	入札により民間業者に工事を発注し、元沢木川における土砂除去、また、元稲府川における河岸の築堤を実施した。									

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	普通河川を適切に維持管理し、決壊等の被害を未然に防ぐことは、町(河川管理者)が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	<input checked="" type="checkbox"/>	設定した目標値の達成状況	普通河川を維持管理することにより、決壊等の被害を未然に防ぐことができたことは、有効であると判断する。
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	ほぼ達成	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	<input checked="" type="checkbox"/>	判断の理由	普通河川における決壊等の規模の大きな被害を未然に防止したことは、事業費の抑制につながり、効率的であると判断する。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	

(4)事務事業の公平性

概ね公平	<input type="checkbox"/>	判断の理由	普通河川の維持管理を実施し、災害を未然に防止できたことは、近隣の住民に対しては公平であると判断する。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	受益が一部に偏る	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
当該事業は、計画通りに進めることができた。 また、災害を未然に防止するため、維持管理工事ができることから、今後も必要な事業であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
災害を未然に防止するため、河川の維持管理を行うことは、必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当であると判断する。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 10010140

政策目標	4 【快適感を満たす環境のまち・雄武】～生活環境・生活基盤の充実～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	17 消防・救急・防災体制の強化	事業優先度	B	
単位施策	1 災害予防対策の強化	政策事務分類	3 単独自治事務(その他)	
事業名	町内河川改修事業	見直し年度		
事業期間	平成30年度～令和2年度	担当課	10 建設水道課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	施工箇所		#N/A	
事業目標	6箇所	ハード／ソフト事業区分	1 ハード事業	
町民参加	無	関係例規・法令名	無	
町民協働		関係個別計画名	無	

全体計画 事業内容		平成 30 年度 事業内容	令和元年度 事業内容	令和 2 年度 事業内容	令和 3 年度 事業内容	令和 4 年度 事業内容
計 画 内 容	○ナヨロ川：防護柵改修L=144m 護岸嵩上L=20m	ナヨロ川の防護柵改修 ナヨロ川L=90m	元沢木地区無名川 (元沢木川支流)改修 L=6.0m ナヨロ川護岸嵩上、防護柵設置 L=54m 沢木地区田中宅横 水路改修L=33m ※補正繰越(H31実施)10,950千円	大川の防護柵改修 大川L=142.2m 沢木地区田中宅横 水路用地確定調査 L=50m		
	○元沢木地区無名川 (元沢木川支流)：河川改修L=6.0m					
	○沢木地区田中宅横：水路改修L=33m 用地確定調査L=50m					
	○大川：防護柵改修L=142.2m					
計 画 事 業 費	事業費(千円)	21,950	2,200	10,950	8,800	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	21,950	2,200	10,950	8,800		
実 績 事 業 費	事業費(千円)	12,852	2,128	10,724	0	0
	財源内訳					
	国庫支出金	0				
	道支出金	0				
	地方債	0				
その他	0					
一般財源	12,852	2,128	10,724			
関 連 事 項	特定財源の名称	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)
	【評価・実績】	ナヨロ川の防護柵改修 ナヨロ川L=90m	元沢木地区無名川 (元沢木川支流)改修L=6.0m ・ナヨロ川護岸嵩上、防護柵設置 L=54m ・沢木地区田中宅横 水路改修L=33m			
		※事務事業評価結果 A-継続／現状維持	※事務事業評価結果 A-継続／現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果
	第5期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値 4箇所	97%	98%	0%	#DIV/0!
	後期計画への継続 (継続無し)	年度達成率 97%	10%	59%	59%	59%

事業名	町内河川改修事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係長	大庭 悟

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	河川		望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	施工箇所	
抱える課題やニーズ	降雨時における河川増水や高潮などによる海岸からの越波に伴う民有地への被害、転落防止柵の未設置による河川への転落				
どのような状態になることを目指したのか(意図)	排水機能向上のための新たな排水施設の設置、護岸の嵩上げ、転落防止柵の設置		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	河川増水に伴う越流や高潮等による越波、転落事故の防止				
内容(どのような手段で何をを行ったか)	民間業者による工事の実施	入札により民間業者に工事を発注し、河川改修を行った。	①	目標年度	令和元年度
			②	目標年度	令和元年度
				目標値	3箇所
				実績値	3箇所
				達成度	100.0%
				目標年度	令和元年度
				目標値	
				実績値	
				達成度	

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	普通河川における河川構造物の改修は、町(河川管理者)が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		河川増水に伴う越流や高潮等による越波、転落事故を防ぐことができたことは、有効であると判断する。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		当該事業を進めたことにより、河川増水に伴う越流や高潮等による越波、転落事故を防ぐことができたことは、町民や町民の財産を守るという観点から、コストに見合った効果が得られたと判断する。
効率的/概ね効率的/課題あり	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	時間短縮・作業軽減	

(4)事務事業の公平性

概ね公平	判断の理由		当該事業を進めたことにより、河川増水に伴う越流や高潮等による越波、転落事故を防ぐことができたことは、近隣の住民に対しては、公平であると判断する。
公平/概ね公平/公平でない	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
当該事業は、計画通りに進めることができた。また、災害や事故を未然に防止するため、河川改修工事ができることから、今後も必要な事業であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
災害や事故を未然に防止するため、河川改修工事を行うことは、必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当であると判断する。		

- ※展開方向の区分
- 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 - 終了 ○休止 ○廃止

第 6 期 雄 武 町 総 合 計 画 前 期 実 施 計 画 書 兼 事 務 事 業 事 後 評 価 調 書

様式 1

No. 10010150

政策目標	4	【快適感を満たす環境のまち・雄武】～生活環境・生活基盤の充実～	会 計 区 分	1	一般会計	【全体計画内容】 ※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	17	消防・救急・防災体制の強化	事 業 優 先 度		B	
単位施策	1	災害予防対策の強化	政 策 事 務 分 類	3	単独自治事務(その他)	
事業名	災害対策資材購入事業		見 直 し 年 度			
事業期間	平成30年度～令和4年度		担 当 課	10	建設水道課	
事業主体	雄武町		関 係 課		#N/A	
事業指標	購入個数				#N/A	
事業目標	10,333個		ハート／ソフト 事業区分	1	ハード事業	
町民参加	無		関係例規・法令名	無		
町民協働	無		関係個別計画名	無		

全 体 計 画 事 業 内 容		平 成 30 年 度 事 業 内 容	令 和 元 年 度 事 業 内 容	令 和 2 年 度 事 業 内 容	令 和 3 年 度 事 業 内 容	令 和 4 年 度 事 業 内 容	
計 画 内 容	○災害対策資材購入 土のう袋、大型土のう袋、カラーコーン、マーカーライト、コーンバー、バリケード、注意看板(通行止め等)、	土のう袋、大型土のう袋、カラーコーン、マーカーライト、コーンバー、バリケード、注意看板(通行止め等)	土のう袋、大型土のう袋、注意看板(通行止め等)、バリケード	土のう袋、大型土のう袋、カラーコーン、マーカーライト、コーンバー	土のう袋、大型土のう袋、注意看板(通行止め等)、バリケード	土のう袋、大型土のう袋、カラーコーン、マーカーライト、コーンバー	
	計 画 事 業 費	事 業 費 (千円) 2,450	590	450	460	480	470
実 績 事 業 費	財 源 内 訳	国庫支出金	0				
		道支出金	0				
		地方債	0				
		その他	0				
		一般財源	2,450	590	450	460	480
関 連 事 項	【 評 価 ・ 実 績 】	事 業 費 (千円) 1,016	586	430	0	0	0
		国庫支出金	0				
		道支出金	0				
		地方債	0				
		その他	0				
一般財源	1,016	586	430				
特定財源の名称		(実施内容等) 土のう袋、大型土のう袋、カラーコーン、マーカーライト、コーンバー、バリケード、注意看板(通行止め等)	(実施内容等) 土のう袋、大型土のう袋、注意看板(通行止め等)、バリケード	(実施内容等)	(実施内容等)	(実施内容等)	
		※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果 A-継続/現状維持	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	※事務事業評価結果	
第5期計画からの継続 (継続無し)	年度目標値	2,101個	2,027個	2,089個	2,027個	2,089個	
	年度達成率	99%	96%	0%	0%	0%	
後期計画への継続 (継続有り)	全体達成率	24%	41%	41%	41%	41%	
	備考欄						

事業名	災害対策資材購入事業	評価者 管理職 職氏名	建設水道課長	田原 慎也
		評価者 作成者 職氏名	土木管理係長	大庭 悟

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

誰、何が(対象)	地域住民	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標) 指標(指標計算式/解説) ① 購入個数/購入個数 ②	購入個数		
抱える課題やニーズ	大雨等による災害発生時に、地域住民の財産を守るために必要となる資材の不足		目標値及び実績値		
どのような状態になることを目指したのか(意図)	大雨等による災害発生時に、地域住民の財産を守るために必要となる資材の確保		目標年度	令和元年度	
その結果、どのような成果を実現したいか ※成果=目的	地域住民の財産の保護		目標値	2,027 個	
内容(どのような手段で何をを行ったか)	民間業者からの購入	民間業者から資材を購入し、大雨等の災害に備えた。	実績値	1,987 個	
			達成度	98.0 %	
			目標年度	令和元年度	
			目標値		
			実績値		
			達成度		

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	大雨等の災害発生時に、地域住民の財産を守ることは、町が担う必要がある。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況		大雨等の災害に備え資材を確保し、実際に使用できたことは、有効であると判断する。
有効/概ね有効	<input checked="" type="checkbox"/>	達成	
課題あり	<input type="checkbox"/>	下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由		実際に河川増水時の浸水対策として使用し、地域住民の財産を守ることができたことは、コストに見合った効果が得られたと判断する。
効率的/概ね効率的	<input type="checkbox"/>	事業費抑制	
課題あり	<input type="checkbox"/>	人員削減	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

(4)事務事業の公平性

公平	判断の理由		大雨等の災害に備え資材を確保し、地域住民の財産を守ることができたことは、公平であると判断する。
公平/概ね公平	<input type="checkbox"/>	受益者負担がある	
課題あり	<input type="checkbox"/>	受益者負担がない	
	<input checked="" type="checkbox"/>	その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
- B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
- C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
- D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
当該事業は、計画通り進めることができました。 また、地域住民の財産を守るためには、今後も計画通り事業を進めることが適当であると判断する。		

今後の展開方向
(Action)

継続/現状維持		
地域住民の財産を守るため、災害対策用資材を確保することは必要不可欠であることから、継続、現状維持が適当であると判断する。		

- ※展開方向の区分
継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
終了 休止 廃止